

木津川市あそびでつながる PLAYFUL PARK「かがくあそび」実施報告書

趣旨

遊びから科学を感じる機会を提供することによって、子どもは日常の身近な事柄を科学的視点でとらえることを覚える。その経験の繰り返し、後の理科学習への興味とつながり、科学を楽しむ子どもたちが増えることに期待を寄せる。

「かがくあそび」の最中は、保護者には危険の回避だけをお願いし、それ以外は口出しせず、子どもの自由な探索を見守るようお願いした。

実施日

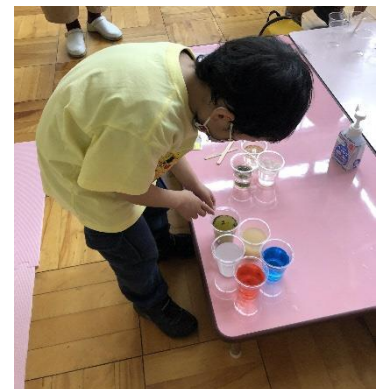
- 1, 2022年5月14日(土)
- 2, 2022年11月3日(祝)
- 3, 2023年1月29日(日)

1、5月14日(土) 会場：アスピアやましろ

① みずにとけるかな (3歳～6歳) ② かぜでうごくかな (0歳～2歳)

- ① 水と口に入れてもよい食材(砂糖、きなこ、抹茶、片栗粉、ごま、天かす、食紅など)を用意し、水に溶けるかを試す。
- ② 紙風船、ボール、トイレットペーパーの芯、リンゴ、タオルなどを用意し、風(ミニ扇風機使用)で物が動くことを体験する。

- | | | |
|-----|------|-----|
| 1回目 | ①12名 | ②6名 |
| 2回目 | ①10名 | ②6名 |
| 3回目 | ①10名 | ②6名 |
| 4回目 | ①14名 | ②5名 |



保護者の感想

① に参加

- ・家ではできないあそびなので、楽しそうだった。
- ・つい、こうしたらと指示してしまっていて自由にさせないので、今日はだんだん自由にできていてこちらの我慢が必要だった。
- ・親はつい、あとかたづけ、よごれることが気になる。
- ・もったいない、とか、準備が面倒とか考えてしまうので、ここでさせてもらい、夢中な姿をみてうれしかった。
- ・家でもできると気づいたので、科学につながるあそびをさせてあげたい。
- ・自由にさせることが想像につながると思う。
- ・大勢の中で緊張している様子だ。コロナで出かけられなかったことが影響してなじめなかったかも。

② に参加

- ・こういった場所に参加するのははじめてで周りが気になっていた。
- ・かぜを意識したことがなかったので、家で落ち着いてやってみたい。
- ・身の回りにあることに親が疑問をもつことが忙しくてできていないので、ちょっと手を休めてまず、親が感じたい。

2、11月3日(祝) 会場：恭仁京跡

いろをさがそう

- 1回目 16人
- 2回目 23人
- 3回目 20人



石や葉っぱをよく見ると、いろんな色が見つかることを経験する。
観察するということを子どもたちはよく理解して、どの子も自分が見つけた色を熱心に描いていた。

保護者の感想

- ・外で絵を描くということが新鮮だった。
- ・スケッチするのではなく、色を見つけるという視点が興味深かった。
- ・子どもが思った以上に集中していた。
- ・子どもが石をよく見て、たくさんの色を見つけていてなるほどと思った。
- ・絵を描くということは、こういうことから始まるのかと感じられたイベントに参加できてよかった。

3、1月29日(日) 会場：木津川市中央体育館

みずにとけるかな？

- 1回目 16人
- 2回目 18人
- 3回目 18人



今回も、子どもたちは、様々な物質が水に溶けるか確かめたり、溶け方を比較したり、自由に「とけるあそび」を楽しんでいた。

初回（5月14日）の子どもたちの様子を観察した研究者が、今回は各テーブルで子どもの様子を撮影すると同時に、「子どもの探索活動への親の介入」をテーマとして保護者へのアンケートを実施した。

保護者は時に、子どもの探索的な遊びを有意義なこととみなさず、「危ない」「汚い」と制止してしまう。子どもの学びに重要な様々な探索行動の深さが、保護者の介入に影響を受ける可能性も考えられる。今回のアンケートからは、運動・認知どちらの探索遊びについても「すぐに制止する」～「積極的に関わる」まで保護者によって大きく異なり、危険や汚れを伴う遊びで制止しやすい傾向がうかがえた。今後、この保護者の介入の違いが、イベントでの子どもの探索活動の深さ（持続性・発展性）と関連するかどうか分析する予定である。

